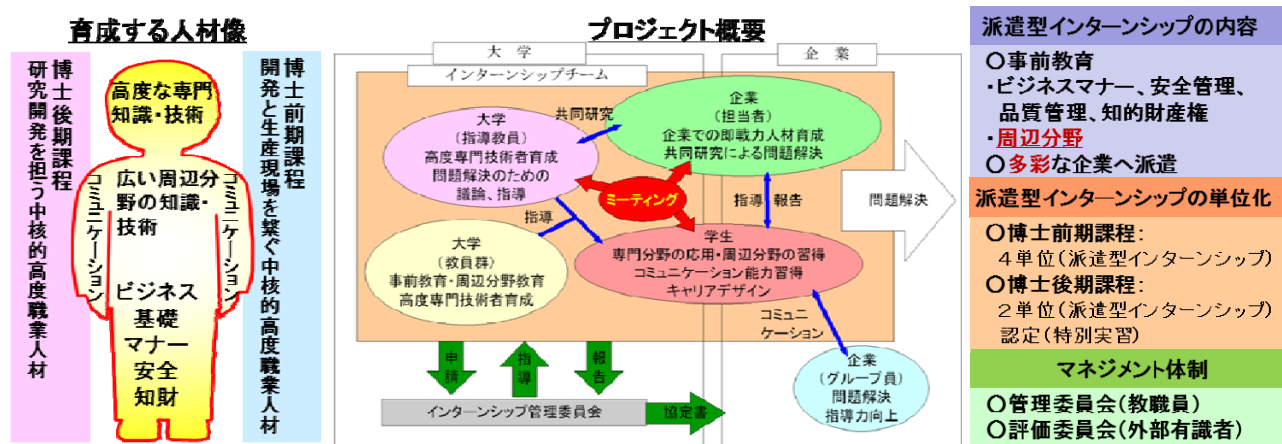


産学連携による実践型人材育成事業 ー長期インターンシップ・プログラム開発ー
最終評価結果

大 学 名	群馬大学
プロジェクト名称	企業から期待されるナノテク技術人材の育成
事業責任者	工学研究科長 板橋 英之

事業概要

本事業は、深い専門知識・技術及び広い周辺分野の知識を有し、様々な分野の専門家との意思疎通をはかることのできる中核的高度職業人材を育成するため、長期派遣型インターンシップを活用し、大学と企業が連携するカリキュラム開発を行った。この目的のために周辺分野教育を導入することで広い視野を養うとともに、学生を中心に、企業担当者・大学指導教員のチームで企業から与えられた課題の解決に当たることで、問題解決能力及びコミュニケーション能力の習得を図り、自立した人材育成を行う点が特徴である。



詳細については、http://www.tech.gunma-u.ac.jp/HP1/KohoInformation/Kohoinformation_News2006080701.html を参照。

最終評価結果

(総合評価) A : 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

《優れた点》

- ・ 先端的複数領域の融合、集約型ナノテクノロジー領域からスタートし、順次工学研究科他領域へと対象学生を拡大していく方式で、最終年度には全専攻の学生が参加している点が高く評価できる。
- ・ 全体として活発に担当教員らが取組み、中間評価の指摘を踏まえ参加学生数がやや増加している点良かったが、さらなる参加者数の増加を目指して欲しい。
- ・ 共同研究をきっかけに、学生の受入機関を開拓している点が工夫されている。
- ・ 本事業に参加した学生が、プログラムに関連する企業等に多く就職していることが評価できる。

《今後に期待する点》

- ・ 全専攻に広がってきているが、大学院生の関心がやや弱く、教員の意識改革には十分いたっていないことは今後の課題である。
- ・ 博士前期課程、博士後期課程それぞれの学生の育成人材像をより明確化していくよう努めて欲しい。
- ・ 周辺分野の教育を含めた事前教育については、学生・企業からのアンケート結果を検証し、引き続き改善を図っていくよう努めて欲しい。